



目次	
●会長あいさつ	1
●副会長あいさつ	2
●本部役員紹介	3～4
●専門部の活動	5
●郡市教頭会ネットワーク	6
●新入会員の声	7
●随想	8



先が見えない今、私たちができること

新潟県小中学校教頭会

会長 小島 淳

(上越市立飯小学校)

5月の県小中学校教頭会理事会において選出され、代議員会において承認いただき、今年度会長を務めさせていただくことになりました。会員の皆様のご支援をいただき、関係諸団体との連携を図りながら、教頭会の研修主題である「未来を生きる力を育む、魅力ある学校づくり」を推進していきたいと考えております。

令和2年は「途絶」で始まりました。修学旅行、集会行事、授業参観等の学校行事や地域との交流が中止となりました。学校間の交流や児童生徒の力を発揮する各種大会ができなくなりました。また、学校職員の出張が無くなりました。そこから見てきたことは、これまで続けてきた事柄の価値と、無くても困らない事柄の存在です。

また、令和2年は「新しいスタイル」の創造が進んだ年でもありました。戸惑いがあり、今まで考えもしなかったことに頭を悩まされました。しかし、知恵を絞り、発想を変えることで新たな形のできるがありました。人数の制限や内容を精選することで、行事や教育活動を実施し、児童生徒の学習や体験を確保しました。また、新しい形によりこれまでできなかったことが可能になったことも出てきました。その代表的なものが遠隔会議システムによる会議や交流活動ではないでしょうか。

令和3年は「リビルド」の1年となります。各学校では、人数を制限した入学式に始まり、三密回避の手立てに基づいた教育活動、遠隔会議システムを用いた集会活動や交流活動が展開されています。元に戻すのではなく、慣習での行っていた事柄や過剰な取組の見直し、新たな視点で再構築を進めることが大事であり、それを実行する時であることを私たちは知っています。各学校の教頭先生方は、各方面

から情報を集め、感染リスクをマネジメントし、教育活動のリビルドの中心的存在として活躍されていることと思います。

また、感染症により GIGA スクール構想が前倒しで実施され、児童生徒全員がタブレット PC を手にしました。この新たなツールの「よさ」をどう引き出し、教師が想定しない使い方を児童生徒が行った場合どうそれを学びに生かしていくか。答えの見えない新たな学びのスタイルの構築のため、学校全体で取り組まなければなりません。

本県教頭会の運営の仕方も昨年とは変わります。直接顔を合わせなくても協議が可能と判断した第2回幹事会は、リモートで行いました。出張にかかる時間が削減でき、会場費と旅費を節約することができました。また、昨年度中止となったブロック研究会を今年度は実施します。全ての地区でリモート開催となる予定です。教頭会としては初めてのトライとなります。その成果については未知数です。おそらくたくさんエラーが出ることが想定されます。大事なことは、エラーを恐れて何もしないことではなく、エラーから学び未来への可能性をつなぐことと考えます。私たちは失敗を恐れます。失敗は自分たちの能力不足や準備不足を問われるからです。しかし、今年はそれを恐れては前に進めません。なぜなら、誰も答えを知らないのだから。「なぜ、エラーが出たのか」「どうすればよかったのか」「なぜエラーが出なかったのか」「もっと上手い方法はなかったのか」これらの議論を積み重ね、今後の判断材料を蓄えていきましょう。

そう、令和3年は「トライ & エラー」の1年でもあるのです。



共につくる

副会長 有坂 一郎
(上越市立大町小学校)

上越市では今年1月、三十数年ぶりの災害級の大雪に見舞われ休校となりました。学校再開時には急な通学路の変更に、保護者とともに多くの地域の方々から登下校時の付き添いなどの協力をいただきました。5月の運動会では、夜中からの雨でグラウンドに水たまりができていたものの、早朝から保護者の方々が集まってくださり、除水作業に懸命に取り組んでくださいました。改めて、学校は多くの方の力によって支えられていることを実感するとともに、地域に開かれた学校として、協働しながら教育活動を共につくっていきたくと決意を新たにしました。

さて、私たちは昨年度の経験を踏まえ、学校の教育活動の歩みを止めることなく現在一步一步前進しているところです。しかしながら、変異ウイルスによる感染拡大の懸念、これに伴う感染症対策と児童生徒の学びの保障、働き方改革の推進、非違行為根絶の取組等、目の前には越えねばならない課題が山積している状況です。

私たちに課せられた役割と責務が重いことを真摯に受け止めながら、会員相互の連携を一層図り、共につくる教頭会でありたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。



New normal (新しい日常) を創る気概の心を

副会長 竹垣 雅彦
(長岡市立表町小学校)

私が勤務する長岡市の市章は、戦災から力強く復興した不撓不屈の不死鳥を象っています。現在は、Society5.0時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが変化しています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大で、それが顕著となりました。学校は、この変化に対応した「学びの保障」が求められました。当校では、この機をチャンスととらえ、教育活動をゼロベースから考え直し、

改善を加えました。一例を挙げると、運動会では、安全を最優先に考え、本来の目的や子どもに付けさせるべき力を問い直しました。その結果、1週間に渡って学年ごとに決められた種目(体育の学習指導要領の内容)を分散型で行い、一人一人の記録の伸びをポイント化して全体の勝敗を決するものに変えました。終了後、「今までの記録と比較でき、伸びを実感できた」「毎日、総合得点が発表され、他学年の活躍の様子がよく伝わってきた」「応援団の設置や競技の設定など、運動会を創り上げる楽しさを実感できた」と肯定的な意見が多く挙がりました。子どもたちが時代の進展・変化に的確に対応し、自ら積極的に未来を創造していく「生きる力」を育むには、前例踏襲ではなく、New normal (新しい日常)を創る気概の心が必要です。不撓不屈の不死鳥の精神を心に刻み、教育活動を創造しましょう。



協働で未来を拓く

副会長 前田 敏之
(新潟市立下山中学校)

下越地区選出の新潟県小中学校教頭会の副会長として2年目を迎えました。今年度も小島会長を補佐し、684名の会員の皆様お一人お一人のお役に立てますように精進して参ります。ご指導並びに御協力のごほどよろしく願いいたします。

本会は、新潟県小中学校教育の発展を目指し、その中核に研究活動を据えています。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、延期された新潟県小中学校教頭研究大会がブロック別に開催されます。研究部の会員中心に、各ブロックの会員の皆様が開催に向けて検討しあい、準備が進められていると伺っております。まさに、研究大会のキーワードである「他者と協働しながら未来を拓く」ことを新潟県内各地で会員自身が実践しています。研究大会に向けて更なるご協力をお願い申し上げます。

今後は、アフターコロナ禍を見据えた学校づくりが進められます。しかし 変わらないもの、変わってはいけないものは、まさに人と人とのつながりです。新役員の皆様、新任の136名の教頭先生方、この出会いを大切にして、令和3年度の新潟県小中学校教頭会へのご協力をお願い申し上げます。

令和3年度 本部役員紹介



幹事長 嶋田 純一
(上越市立南川小学校)

県教頭会の業務については、役員の皆様にお任せといった状態で教頭職4年目を迎え、大いに反省した次第です。「私たち自身の資質を高め、勤務する学校や県教育に貢献する」という県教頭会の目的を改めて確認したところです。「しっかり勉強せよ」との命と肝に銘じて、県教頭会の一員として、精一杯努力したいと思えます。よろしく願いいたします。



中越地区庶務幹事 伊藤 勝広
(長岡市立千手小学校)

中越地区は「長岡市三島郡」「三条市」「小千谷市」「加茂市・南蒲原郡」「十日町市・中魚沼郡」「見附市」「魚沼市」「南魚沼郡市」「燕市西蒲原郡」の9つの教頭会で組織されています。今年度は第57回研究大会(第13回ブロック別研究大会)を、三条市小中学校教頭会の主管で開催します。会員の皆様と力を合わせて取り組んでまいります。



会計幹事 高波 英里
(上越市立浦川原小学校)

昨年度は、コロナ禍において様々な事業が余儀なく縮小、変更されました。そのような中、広報紙を紙面からネット版にする、県内各地から参集していた会議をオンライン会議とする等、皆様の努力により、よりよい教頭会への改革が進められています。今年度も微力ですが、自分にできることを努めて参ります。



下越地区庶務幹事 伊藤 裕之
(新潟市立両川中学校)

県教頭会庶務幹事のお仕事をさせていただき2年目になります。

今年度から両川中に参りました。

昨年度はコロナの影響で多くの事業が中止になったため私自身も仕事の内容がつかめないまま1年が終わりました。

今年も先が読めませんが少しでもお役に立てるようになりたいと思っております。

よろしく願いいたします。



上越地区庶務幹事 松岡 貴徳
(上越市立大手町小学校)

上越地区(上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市)教頭会の連絡・調整役として、微力ではありますが、務めさせていただきます。

このような状況下におかれているからこそ、教頭会のつながりが大切です。全県の情報を共有しながら、学校の要としての私たち教頭の役割が十分に果たせるよう、助け合いながら進みたいです。



下越地区庶務幹事 清野 正康
(新発田市立猿橋中学校)

猿橋中学校は新発田市の商業施設近くに位置しています。少子化の流れの中ではありますが、生徒数は増加傾向にあり下越で最多となっています。「正しく 強く 大らかに」の教育目標のもと生徒は活発に学習や諸活動に取り組んでいます。元気な生徒と温かい職員に囲まれ猿橋中学校での勤務も3年目となりました。

役員を仰せつかり、身が引き締まる思いです。微力ではありますがしっかりと責務を果たすことができると考えております。よろしく願いいたします。

会計監査

渡辺 勝行	上越市立直江津東中学校	横山 学	新潟市立五十嵐中学校
宇佐美 崇	長岡市立川崎小学校		

理事

澤田 隆	糸魚川市立能生小学校	小野塚 純	南魚沼市立浦佐小学校
貝沼 史弘	村上市立神納小学校	西 健志	妙高市立斐太北小学校
笠原 崇	加茂市立加茂小学校	椎 一夫	佐渡市立河崎小学校
池村 和重	上越市立頸城中学校	渡辺 豊	長岡市立宮内中学校
牧野 剛	新潟市立松浜中学校	安達 直人	柏崎市立第三中学校
星野 晴重	三条市立第三中学校	樋口 憲哉	阿賀野市立水原中学校

事務局

横田 誠	脇屋 雅実
------	-------

代議員

上越	日木 芳道	上越市立戸野目小学校
	渡辺 勝行	上越市立直江津東中学校
柏崎・刈羽	岩田 正行	柏崎市立柏崎小学校
糸魚川	齋藤 雅彦	糸魚川市立西海小学校
妙高	松屋 徹	妙高市立新井小学校
長岡・三島	寺井 昌人	長岡市立坂之上小学校
	溝口 英磨	長岡市立四郎丸小学校
三条	知野 昌央	三条市立月岡小学校
小千谷	近藤 博道	小千谷市立小千谷小学校
加茂・南蒲	大塚 賢一	加茂市立葵中学校
十日町・中魚	伊藤 貴史	十日町市立十日町中学校
見附	石澤 克彦	見附市立見附中学校
魚沼	小野塚 眞郎	魚沼市立堀之内小学校
南魚沼	笹岡 正	南魚沼市立六日町小学校
燕・西蒲	笹川 剛史	燕市立燕東小学校
新潟小	小林 淳英	新潟市立新津第二小学校
	浅嶋 隆	新潟市立中之口東小学校
新潟中	長谷川 智明	新潟市立木戸中学校
	佐藤 孝一	新潟市立関屋中学校
新発田・北蒲	今野 由紀子	新発田市立七葉中学校
村上・岩船	小池 満喜子	村上市立小川小学校
五泉・東蒲	水藻 正美	五泉市立五泉小学校
阿賀野	佐藤 仁志	阿賀野市立水原小学校
佐渡小	椎 一夫	佐渡市立河崎小学校
佐渡中	風間 広樹	佐渡市立赤泊中学校
胎内	中野 忠弘	胎内市立中条小学校



専門部活動紹介



調査要請部の活動

調査要請部長 平出 靖
(新潟市立東青山小学校)

今年度も、全公教個人調査及び勤務実態調査（本県独自）と「令和3年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」作成に関わる調査について、会員の皆様にご協力いただきます。

昨年度の報告書によれば、平日朝7時以前に出勤する割合が前年度比10.2%の減少、平日20時30分以降に退勤する割合が同比13.2%の減少でした。各校での働き方改革の意識の高まりが、数字にも表れています。他の項目でも数字上はおおむね改善が見られます。しかし、現実には多忙感が大きく解消されたとは実感できないのではないのでしょうか。勤務実態は以前よりもよくなっているが、まだまだ厳しいというのが現状です。

今年度も教頭の勤務条件の改善につなげるために、全公教と連携しながら、関係機関へ要望を伝えていきたいと考えています。



これからの時代を見据えた 新たな開催スタイルへの挑戦

研究部長 松田 朋子
(長岡市立豊田小学校)

今年度は、第12期全国統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」を受け、新潟県教頭会として設定したサブテーマ「夢・志をもち、他者と協働しながら未来を拓く子どもを育む学校づくり」の2年次を迎えます。現在、柏崎市刈羽郡教頭会、三条市教頭会、新潟市教頭会、村上市岩船郡教頭会が主幹となり、オンライン開催に向けた準備を進めています。令和3年度のプロック別研究大会は、これからの時代を見据えた開催スタイル確立への第一歩と言えます。

新たな挑戦のもと、1年ぶりとなる研究大会では、更なる「研究課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を目指します。そして、互いの実践から学ぶことを通して、学校運営の力量を高めるとともに、会員同士のつながりを強固にする機会にしていきたいと考えています。



連帯意識を高め つながりを広げる

広報部長 朝井 宜人
(上越市立国府小学校)

広報部では、県教頭会の活動方針や活動状況を紹介することによって、本会に対する理解と協力がいただけるよう努めます。また、郡市教頭会の取組や会員の皆様が考えていることなどを紹介し合うことで会員相互の連帯意識を高めたり、つながりを広げたりできたらと思います。

今年度の「特集」は、コロナ禍にスタートしたGIGAスクール構想における各学校の取組について紹介していただく予定です。

会報は、昨年度からウェブ上でご覧いただく形になっており、各郡市事務局の発送業務の軽減や発行経費の削減等につながっています。ご理解いただけたらと思います。なお、会報の発行に際して、会員の皆様からは、原稿執筆等にご協力いただくこととなります。よろしくお願いいたします。



教育課題部の活動

教育課題部長 久保 俊幸
(長岡市立東中学校)

教育課題部は、県の最重点教育課題を的確に把握し、その解決に向けどのように取り組むべきかを示唆し、具体的な対策・実践・結果の分析等、課題解決への推進役を担います。これまでの調査結果を受けながら、第57回新潟県小中学校教頭会研究大会（第13回プロック別研究大会）の趣旨に基づき、関連した5つの教育課題の取組状況について、例年のように意識調査を実施し、日々の業務や今後の研究大会の基礎となるようにしたいと考えております。

皆様から回答いただいた調査結果を基に、教育課題部で集約・分析し、県小中学校教頭会のホームページや年度末発行の『教頭の勤務実態調査及び教育課題意識調査』（調査要請部と合同作成）に掲載する予定です。教頭として、今後の取組の在り方を考える一助にいただければと思います。

郡市教頭会ネットワーク



顔がよく見え、 風通しのいい教頭会

小千谷市小中特別支援学校教頭会
幹事長 荒木 充
(小千谷市立東小千谷中学校)

小千谷市小中特別支援学校教頭会は、小学校8校、中学校5校の計13校、14名（小千谷小が教頭2名配置校）の会員で構成されています。顔がよく見える利点を生かし、教頭同士が遠慮なく情報交換と情報共有を行い、業務推進に役立てています。

教頭会は小・中合同で、主な取組は春と冬に行われる2回の総会、年4回の研修を軸に行っています。

4回ある研修会は、「研究大会等に向けた発表原稿づくり」、「地域巡検」、「課題研修」、「市長、または市教育委員会管理指導主事からの講話」などを組み合わせながら行っています。

研究大会等に向けた発表に関しては、発表者だけに任せるのではなく、研修委員会が中心となって原稿やプレゼンづくりを支援しています。実践内容を複数の眼で精査することで実践内容を焦点化し、また、仲間の実践から各校の実態を浮かび上がらせるなど、刺激を得ることができる貴重な場となっています。

地域巡検は、小千谷市に初めて勤務する方も少なからずいるため、近隣の施設や史跡等を見学することで知見を広げ、各校の教育活動に還元しています。過去にはおちや震災ミュージアムそなえ館、信濃川河川事務所妙見堰管理支所などを見学しました。

そして、毎回、研修会後は必ず情報交換を行っています。各学校内における課題を相談して助言を得たり、具体的に各校であった危機的場面についてどのように対応したか、教育委員会からどのような指導があったかなどを聞き取ったりして、情報交換と共有をし、自校で業務改善に行かせるヒントを得る場になっています。

昨今、教育課題が多様化、複雑化する中でありますが、今後も小千谷の子どもたちのために、研修の充実と会員相互の連携強化を目指して、教頭会の活動を充実させていきたいと考えています。



子どもたちや、教職員のために 何ができるかを考える

新発田市・北蒲原郡小中学校教頭会
今野 由紀子
(新発田市立七葉中学校)

新発田市・北蒲原郡小中教頭会は、新発田市の小学校15校、中学校10校の25校、26名の教頭で組織されています。

普段は、小学校教頭会と中学校教頭会に分かれ、それぞれ定例の教頭会を行っています。年に3回、小中合同の教頭会を行い、教頭としての力量を高めるための研修を進めています。

1 年2回の小中合同研修会で力量を高める

6月と2月に、小中合同の研修会をしています。新発田市教育長、新発田市教育委員会学校教育課長を講師として招き、ご講話をいただいています。ご講話を通して、新発田市の「ひとが第一、ひとが大事 新発田の教育」という基本方針に向かい、教頭としての力量を高めていかなければと決意を新たにすることができます。2月の教育長のご講話では、「傾聴と共感」、「人と人との心が通じ合う環境づくり」等の大切さを学び、「人が大事」「心が大事」なのだ、教頭としてのあり方、生き方について自らを振り返ることができました。

2 夏期に行う事務職員との小中合同研修会

毎年8月に、「教頭・事務職員合同研修会」を行っています。研修内容については、事前に事務職員と小学校会長と中学校会長で、主題や内容について協議しています。令和元年度からは、今年度のブロック別研究大会に向けて、研究課題「施設・設備及び事務に関する課題」について、事務職員と市の地域安全課と協働して研修を進めてきました。「災害発生に備える学校防災機能の強化」を共通の課題と捉え、今年度は、避難所運営ゲーム「避難所HUG」を通して、避難所レイアウトを作成し、避難所の開設・運営の実践力を高める研修を行います。

3 小・中分かれての定例教頭会

～それぞれの教育課題を基に計画～

小学校教頭会、中学校教頭会それぞれが、教育課題の改善に向けた研修会を計画し実施しています。市の校長会長や下越教育事務所の所長や課長を講師として招き、教頭として必要な資質や心構え、危機管理について学んでいます。中学校教頭会は、高等学校教頭会との交流会を年に2回実施し、中学校、高等学校をそれぞれ訪問し合い、情報を共有したり、それぞれの課題について協議したりして連携を深めています。また、小学校教頭会は、今年はコロナウィルス感染症の対策として実施できませんが、毎年小学校長会と合同の研修会を行っています。

定例の教頭会では、できる限り時間をとり、各校の情報交換を行っています。事例やその対応方法、教育委員会の指示、対応後の変化などを共有することで、気づきが生まれ、子どもたちや教職員のために、何をすべきか考える学びの場になっています。



憧れの先生像を目指して

上越市立上雲寺小学校

入村 文子

「教頭先生」と呼ばれることに、違和感しかなかった4月。一体どんな仕事をしたらいいのか全く分からない私。しかし「教頭先生ならなんでも知っている」という周囲の認識の中でのスタートでした。

3ヶ月が過ぎた今、学校には多くの人関わっていること、そしてたくさんの方の想いが集まる所だと改めて感じています。「私はその想いに応えることができたでしょうか。子どもたちを始めとして多くの人の役に立てたでしょうか。」と、自問自答する日々が続いています。こんな私を職員はもとより、地域の方も支えてくださることに感謝する毎日です。

私には憧れの先生像があります。いつも穏やかで、ユーモアがあり、誠実で、広く平に物事を見つめ、愛と思いやりのある「人間愛」に満ちた先生。私は憧れの先生を目指しつつ、教頭職の役割に創造性を加えた仕事ができるよう、学び続けていきます。



教頭としての覚悟

五泉市立五泉北中学校

沼崎 幸治

新任教頭として赴任し、はや3ヶ月が過ぎようとしている。生徒の事故や問題行動、保護者からの問い合わせ、業者との対応などに追われ、気が付けば報告文書の提出期限が間近に迫る（いや時には期限が過ぎて催促の電話も…）という日々である。市教委や外部機関との窓口となる教頭として、学校の信頼を得るためには「提出期限の厳守と誤字脱字などのミスがない報告」この二つが大切であると先輩から教えを賜ったが、なかなか実行できずにいる毎日である。校内では、明るく元気で何事にも一生懸命な生徒や、情熱をもって学習や生徒会活動、部活動に生徒とともに汗を流す職員の姿がある。この活気ある学校を陰で支えてくださっているのは、地域や関係機関の皆様である。その信頼と期待に応えるべく、教頭として日々精進する覚悟である。



シトラスリボンから

長岡市立中島小学校

矢嶋 香織

初めての教頭会でシトラスリボンをいただいた。新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見の防止を目的とする『シトラスリボンプロジェクト』のシンボルだ。

翌日、「何つけてるの?」「なんでつけてるの?」と早速子どもたちが反応した。子どもたちと話しながら、改めて居心地のよい学校にしたいものだと考えた。このリボンで表す三つの輪は、地域・家庭・学校（職場）だそう。シトラスリボンをほどくと、一本の線になる。ここでもその三つには密接なつながりがあることを象徴しているかのようだ。

様々な事象や人とのつながりが重なり合って今がある。この度、教頭会の一員としてお世話になることになり、つながりや学びの場をいただいたことに身が引き締まる思いで過ごしている。これからつながるすべての事柄を大切にしていきたい。



教頭は職員室の担任

見附市立田井小学校

岸 亮

私は新任教頭として赴任した今年度まで級外の経験はなく、学級担任や学年主任として子供たちと本気で向き合ってきました。また、初の級外が教頭職ということもあり、その重圧は計り知れないものでした。しかし、校長先生の丁寧なご指導や職員の理解と協力に救われ、その思いに応えようとこの2ヶ月間必死に業務をこなしてきました。

「教頭は職員室の担任である」という言葉を耳にしたことがあります。業務をこなすだけでは職員の信頼は得られません。そんな時こそ学級担任時代に培った経験を生かすチャンスです。学級・学年の子供たちにしたように職員一人一人に寄り添い、一つ一つの訴えに真摯に向き合い丁寧に対応する……。新しいことを吸収しつつも自分のよさを生かし、信頼される教頭に成長していきたいです。

随 想



本物に触れる体験

加茂市立加茂小学校

笠原 崇

メダカの飼育を続けて5年以上になる。担任した学級で育てていたメダカを引き取ったことが、飼育を始めたきっかけである。卵を産ませて稚魚を大きく育て、世代交代を繰り返して今に至っている。

飽きずに続けられているのは、喜びや驚き、発見があるからである。卵が生まれれば嬉しいし、氷の張った水中で冬を越す生命力には毎年驚かされる。バーチャルでは味わえない、本物に触れるからこそできる体験だと思う。

子どもたちが虫かごを持って外に飛び出していく姿を目にする。どの子も捕まえてきたバッタやカナヘビを嬉しそうに眺めている。ゲームやYouTubeでは味わえない楽しさ、感動を体験している姿だと思う。キラキラと輝く子どもたちの目は、本物に触れる素晴らしさを改めて教えてくれる。

ゲームやYouTubeが全くダメと言うつもりはない。自分もゲームをするし、YouTubeもよく見ている。しかし、本物に触れるからこそできる体験、自分で実際にやってみるからこそ味わえる感動がある。アナログなことかもしれないが、これからも大切に、子どもたちと一緒に驚いたり、喜んだりしていきたい。



畑仕事

佐渡市立南佐渡中学校

本間 学

ここ数年、週末時間がある時は、母を手伝って畑仕事をしています。春先は、小型の耕耘機を使って畑を耕したり、畝を作って種を蒔いたり苗を植えたりしました。その後も、草を刈ったり支柱を立てたり肥料をやったりと、次々と仕事がありました。畑で働く母の姿は見えていましたが、力仕事があったり時には蜂やヤブ蚊との格闘もあったりと、思っていた以上に大変でした。自分が実際にやってみて初めてその大変さや苦勞が分かりました。母がこれまで一人で畑仕事をこなしてきたことに感心すると共に、何も手伝わず、収穫された野菜を感謝もせずにとただ食べるだけだった自分が恥ずかしくなりました。

元々は、次第に体が利かなくなり、機械を使ったり重いものを運んだりすることがきつくなってきた母から頼まれたことがきっかけでした。しかし今は、自分から進んで畑に足を運び、母に聞き教えてもらいながら畑仕事を一緒にやっています。趣味とまではいきませんが、でもよくよく考えてみたら、実はこれが自分の健康法であり、ストレス解消になっているんだと気がきました。

もうすぐ夏野菜の収穫の時期を迎えます。たくさん収穫し、家族で味わうことを楽しみにしています。

令和3年度 各種大会日程

- 1 全国公立学校教頭会研究大会 佐賀大会 8月3日(火)、8月4日(水)
オンライン参加
- 2 第57回県小中学校教頭会研究大会・第13回ブロック大会
10月29日(金) オンライン開催
- 3 第62回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会 千葉大会
11月12日(金) オンライン開催
- 4 第72回全国人権・同和教育研究大会 新潟大会 紙面開催

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
https://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/